

令和 6 年 6 月 6 日現在

機関番号：10102

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2019～2023

課題番号：19K02924

研究課題名(和文) アメリカ進歩主義期における特別なニーズのある子どもの身体活動に関する史的研究

研究課題名(英文) Historical study on the physical activities of children with special needs in the american progressive era

研究代表者

千賀 愛 (Senga, Ai)

北海道教育大学・教育学部・准教授

研究者番号：10396335

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 2,100,000円

研究成果の概要(和文)：1890-1920年代の米国で展開された新学校・進歩主義学校および地域支援活動としてのセツルメント活動を対象に、特別なニーズのある子どもの身体活動や体育・スポーツ活動の観点からを明らかにすることを研究目的とした。ハル・ハウスに関する1890-1907における身体活動の支援活動について論文執筆(2020)、デューイの教育理論におけるインクルーシブ教育の特徴について日本デューイ学会で報告(2021)、国際学会ISCHEでシカゴのハルハウスの身体活等や余暇支援に関する発表を行った。2023年度は『明日の学校』(1915)における身体活動・体育の教育実践の投稿論文が採択された(デューイ学会紀要)。

研究成果の学術的意義や社会的意義

本研究は1890-1910年代における米国シカゴを中心とした歴史的研究であるが、移民や難民、障害や病気の子どもや若者が単に労働搾取や学校における低学力や退学・怠学の対象として生きていたのではなく、余暇活動やスポーツ活動を通じて、同世代と繋がり、自己実現や文化的・健康的な生活を高めようとする積極的な姿にあったことが明らかになった。現代社会においても、身体活動やスポーツ活動、遊びや余暇に多様な困難・ニーズのある子どもや若者が参加する意義、公的な予算や民間による支援活動を展開するための知見を提供できると考える。

研究成果の概要(英文)：This study focused on new schools, progressive schools, and settlement activities as local support activities that were developed in the United States from the 1890s to the 1920s.

The results of the research are as follows: a paper on Hull-House's physical activity support activities from 1890 to 1907 (2020), an oral presentation on the characteristics of inclusive education in Dewey's educational theory (2021), and a presentation on physical activity and leisure support at Hull-House in Chicago at the international conference ISCHE (2021). In 2023, a paper submitted on the educational practice of physical activity and physical education in "The School of Tomorrow" (1915) was accepted(2024).

研究分野：特別ニーズ教育学

キーワード：障害のある子ども アメリカ合衆国 セツルメント活動 ジョン・デューイ

### 1. 研究開始当初の背景

新学習指導要領の実施に伴い、特別支援学校や学級の教育においても主体的な学習や生涯にわたってスポーツ・文化に親しむ基盤を形成することが期待されている。現代の子どもたちのスポーツ・運動習慣は体力・運動能力とともに二極化の傾向にあり、障害による特性や制限だけでなく自閉症児の不器用さなど、障害のある子どもの身体は運動や体育の側面で様々な困難を抱えていることが指摘されていた(澤江・齊藤:2014)。認知神経科学者や情動・感情に関する研究者が提示した論点は、学習における身体を現代的な教育の議論の中心に位置づけ、教育史研究においても強い興味関心を喚起することとなった(Rousmaniere and Sobe:2018)

本研究は米国の19世紀末から20世紀初頭における教育委員会年報・議事録の分析を通して貧困・移民地区を中心とする学業不振児問題や健康問題、子どもの生活困難な状況の実態を示すと同時に、地元の学校が試みた教育改革をカリキュラムや教育的対応を明らかにし、それらの教育実践を理論面で支えた児童研究や教育学を特別な教育的配慮の観点から再評価して提示することで、現代的な課題に対する有益な知見を提示したいと考えた。

### 2. 研究の目的

本研究課題「アメリカ進歩主義期における特別なニーズのある子どもの身体活動に関する史的研究」は、1890 - 1920年代のアメリカで展開された新学校・進歩主義学校および地域支援活動としてのセツルメント活動を対象に、特別な身体的・教育的ニーズのある子どもの身体活動や体育・スポーツ活動の観点からその取り組みを明らかにすることを主な目的とした。

### 3. 研究の方法

本研究では、主に歴史研究で用いられる文献調査、資料調査による研究アプローチを採用した。アメリカ教育史や障害研究(Disability Studies)のデータベース、国内で所蔵されるハルハウスに関する史料集(Jane Addams Papers)、米国ミズーリ大学貴重資料室における新学校の記録を含む資料調査を行った。

### 4. 研究成果

研究期間1年目の2019年度は、2020年3月に米国への資料調査を計画していたが、渡航直前にコロナ禍による感染拡大のため制限が厳しくなり、直前の2月末に現地調査を断念した。

しかし、2019年度は以前より分担翻訳していたデューイの著作集が出版された(東京大学出版会、明日の学校、上野正道訳者代表)。2020年度は、フィンランドで予定されていた国際学会ISCHEも中止になってしまったが、この経験を通してデューイの著作である「明日の学校」を読み直し次の研究計画を立案することができた。

2年目の2020年度は、シカゴのハル・ハウスにおける特別なニーズのある子どもの余暇・身体活動の展開(1890-1907)の論文が北海道教育大学紀要(71巻1号)に掲載された。主な内容は次の通りである: 1889年9月に米国シカゴの移民・貧困地区で開設されたセツルメント活動の拠点であるハル・ハウスを対象に、貧困問題や健康問題を抱えた特別なニーズのある子どもの余暇活動やスポーツを中心とする身体活動がどのように展開されていたのかを明らかにすることを目的とした。分析対象とした期間は1890年から1907年であり、ハル・ハウスの会報や会計資料などを検討した。初期には身体訓練を中心とする体操が行われていたが、徐々にバスケットボールやスケート、室内野球や陸上競技へと身体活動の幅が広がり、ダンスや演劇の活動も展開されていた。また体操やスポーツ活動が当初は男性に限定されていたが、女性や学齢児の女子を対象とするクラスも開設され、幅広い年齢・性別から参加できるようになっていた。またバスケットボールの試合では地域のチームと試合を行うなど、スポーツを通じた同世代の交流の機会を生み出していた。

3年目の2021年度は、海外への渡航制限が続くなか、オンライン形式で日本デューイ学会第64回研究大会の公開シンポジウム「インクルーシブ教育と民主的社会の未来」が開催され、「デューイの教育理論におけるインクルーシブ教育の特徴」について報告を行った(2021年9月)。デューイの「民主主義と教育」(1916)の「第4章 成長としての教育」から、生活は発達であり、発達・成長するという教育の過程は連続的な再編成改造を伴う変形の過程であることを確認し、プロセスとしてのインクルーシブ教育と共通の構造を持つことを示した。また同年8月にはコロナ禍で延期されていた国際学会ISCHE(International Standing Conference for the History of Education)で口頭発表を行い、1889-1915年のハル・ハウスで移民や民族的マイノリティの子どもがスポーツや余暇活動に参加し、聾者など障害のある人と交流していたことを示した。

また2021年10月にはSNE学会の課題研究に取り組んだ成果として、論文「アメリカ研究からみた特別なニーズ教育の地平」がSNEジャーナル第27巻1号に掲載された(学術登録団体・査読あり)。本論文では、インクルーシブ教育の財政問題と平等性、障害を含む二重に特別な背景を持つ子どもの教育保障、通常の学校・学級における一般教員・生徒の価値観や文化的側面など

を含むアメリカ研究の動向を踏まえた考察を行った。

2022年度は、デューイとエヴェリンの共著である「明日の学校」(1915)に登場する新学校の身体活動や体育の実践に関する検討を行い、同年9月25日に日本デューイ学会第65回研究大会において口頭発表(テーマ:『明日の学校』(1915)における身体活動・体育の教育実践に関する検討)を行った。デューイ研究に関する専門家の助言や口頭発表の際の議論を踏まえ、論文執筆を開始したが、ミズーリ州立大学附属小学校に関する情報が不足し、改めて現地の資料調査を計画するため、研究期間の延長申請を行なった。

最終年度となる2023年度は、6月にミズーリ州立大学図書館貴重資料室及びミズーリ州立歴史協会(The State Historical Society of Missouri, Center for Missouri Studies)の貴重資料室を訪問し、当時の学校に関する記録を収集した。収集した資料をもとに、論文「『明日の学校』(1915)における身体活動・体育の教育実践に関する検討」をデューイ学会紀要に投稿し、査読審査を経て掲載が決定した(3月末)。本論文は、2024年6月発行の日本デューイ学会紀要第64巻(p.21-30)に掲載された(学術登録団体、査読有)。

『明日の学校』(1915)における身体活動・体育の教育実践に関する検討」主な内容は、次の通りである: 本稿では『明日の学校』に登場する学校から、「デューイの実験学校のカリキュラムを継承」したとされるオーガニック・スクールと日本の新教育実践にも影響を及ぼしたミズーリ大学附属小学校の二校の身体活動と体育・保健の実践を検討した。具体的には、野外の遊びや遠足、身体活動を伴う室内外のゲーム・遊び、室内のダンスを含む「身体活動」(physical activity)と、体操(gymnastics)・競技と余暇のスポーツ、健康ケア・身体検査を含む「体育・保健」(physical education and health care)の2つの視点から身体活動の検討を行った。ミズーリ州を含む多くの州で体育の法規定や学習指導要領の記載が弱い中で、毎日の身体活動の時間を設け、子どもの健康ケアや身体検査に基づく助言や運動などの配慮が行われていた。アラバマ州のオーガニック・スクールでは野外活動や子ども自身が考えた遊びも取り組まれていた。ミズーリ州立大学附属小学校では、ダンス、自由遊び、行進など様々な身体活動の時間が設定され、とりわけ野外遊びが重視されていた。しかしながら当時のアラバマ州やミズーリ州の体育に関する教育課程や学習指導要領、他校との比較については十分に検討することができず、今後の研究課題としたいと考えている。

#### 引用参考文献:

澤江幸則・齊藤まゆみ(2014)障害のある子どもの「身体」『身体性コンピテンスと未来の子どもの育ち』澤江幸則ほか編,明石書店。

Rousmaniere, K. and Sobe, N.W.(2018) Education and the body: introduction, *Pedagogica Historica: International Journal of the History of Education*, 54(1-2), 1-3.

ジョン・デューイ(2019)デューイ著作集7 教育2 明日の学校,ほか,佐藤学監訳、上野正道訳者代表,東京大学出版会。

千賀愛(2021)シカゴのハル・ハウスにおける特別なニーズのある子どもの余暇・身体活動の展開(1890-1907)の論文が北海道教育大学紀要,71(1),149-161.

千賀愛(2021)アメリカ研究からみた特別ニーズ教育の地平, *SNE ジャーナル*, 27(1), 36-47.

千賀愛(2024)『明日の学校』(1915)における身体活動・体育の教育実践に関する検討, *デューイ学会紀要*, 64, 21-30.

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計3件（うち査読付論文 2件 / うち国際共著 0件 / うちオープンアクセス 1件）

1. 著者名 千賀愛	4. 巻 27(1)
2. 論文標題 アメリカ研究からみた特別ニーズ教育研究の地平	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 SNEジャーナル	6. 最初と最後の頁 36-37
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 千賀愛	4. 巻 71(1)
2. 論文標題 ハル・ハウスにおける特別なニーズのある子どもの余暇・身体活動の展開(1890-1907)	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 北海道教育大学紀要. 教育科学編	6. 最初と最後の頁 149-161
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 千賀愛	4. 巻 64
2. 論文標題 『明日の学校』（1915）における身体活動・体育の教育実践に関する検討	5. 発行年 2024年
3. 雑誌名 日本デューイ学会紀要	6. 最初と最後の頁 21-30
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

〔学会発表〕 計5件（うち招待講演 0件 / うち国際学会 1件）

1. 発表者名 千賀愛
2. 発表標題 『明日の学校』（1915）における身体活動・体育の教育実践に関する検討
3. 学会等名 日本デューイ学会 第65回研究大会
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 千賀 愛
2. 発表標題 デューイの教育理論におけるインクルーシブ教育の特徴
3. 学会等名 日本デューイ学会第64回研究大会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 Ai Senga Tanimoto
2. 発表標題 Sports and Physical Activities for Children at Hull House, a Social Settlement in Chicago 1889-1915 (Presentation No.251)
3. 学会等名 ISCHE 42 (International Standing Conference for the History of Education 42nd) (国際学会)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 千賀 愛
2. 発表標題 アメリカ研究からみた特別ニーズ教育研究の地平
3. 学会等名 日本特別ニーズ教育学会 第27回研究大会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 千賀愛
2. 発表標題 ハル・ハウスにおける特別なニーズのある子どもの余暇支援・身体活動の展開(1889-1915)
3. 学会等名 日本特別ニーズ教育学会 第25回研究大会
4. 発表年 2019年

〔図書〕 計2件

1. 著者名 吉利宗久・千賀愛	4. 発行年 2023年
2. 出版社 培風館	5. 総ページ数 219
3. 書名 特別支援教育・インクルーシブ教育のかたち	

1. 著者名 高橋智・加瀬進監修、日本特別ニーズ学会編（千賀愛 第11章第1節 特別ニーズ教育と国際情勢 主要国における動向を執筆）	4. 発行年 2020年
2. 出版社 文理閣	5. 総ページ数 318
3. 書名 現代の特別ニーズ教育	

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
---------------------------	-----------------------	----

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関
---------	---------